

## 石油精製過程等における炭素収支について

総合エネルギー統計は、我が国のインベントリの基盤となる統計の一つである。この総合エネルギー統計は2003年度に全面改訂がなされたが、その結果、石油精製やコークス製造などのエネルギー転換部門において、物質収支・エネルギー収支がとれておらず（投入した原油に含まれる炭素量が、製造した各種石油製品及び製油所ガスに含まれる炭素量の合計と一致していない等）統計精度の向上が課題となっていた。

これに関しては、総合エネルギー統計を所管する資源エネルギー庁において検討が進められているところであり、検討の進捗状況は、石油精製については、これまでは5年に一度であった発熱量の見直しを毎年行うこと、石油精製の統計項目を分割してエラーチェックを行うこと等により、概ねエネルギー収支・物質収支を成立させることができる見込みであること、鉄鋼業のエネルギー転換に関しては、同様に推計過程や統計の見直しを行うことにより改善すると考えられるものの、原料炭の発熱量の精査、推計方法の一層の改善等につき引き続き検討が必要と考えられること、とのことであった。

このため、今回のインベントリは従来通りの方法で作成・提出することとするが、引き続き統計精度を向上すべく、合理的かつ透明性の高い方法を早急に検討することとする。